

福岡県におけるブラジルチドメグサの分布拡大とその対策

須田隆一・金子洋平・石間妙子・中島 淳（福岡県保健環境研究所）

e-mail: suda@fihes.pref.fukuoka.jp

はじめに

■背景

- ・外来生物法（2005年）：特定外来生物，現在132種類
- ・生態系被害防止外来種リスト（2015年）：
- ・**福岡県侵略的外来種リスト(仮称)**（2017年3月予定）
- ・繁殖力旺盛な外来水生植物の侵入・大繁茂は，在来種の生育を圧迫（特定外来生物指定植物16種類のうち9種類が水生植物）

■目的

- 特定外来生物ブラジルチドメグサを対象として，
- ・**福岡県における分布拡大状況，生育特性を把握する**
 - ・**効果的な防除方法を検討する**

調査対象と方法

■ブラジルチドメグサ



- ・ウコギ科(セリ科)チドメグサ属
- ・多年生の水生植物
- ・南北アメリカ原産
- ・抽水植物（浮遊植物）
→泥中に根を伸ばすとともに，水面を浮遊
- ・主として栄養繁殖
- ・**特定外来生物 第1次指定**

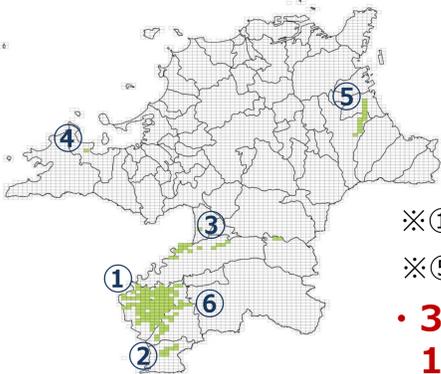
- ・1998年ごろ，熊本県菊池川で確認
- ・2007年，福岡県筑後地域のクリークでの大繁茂が問題化

■方法

- 1) 分布状況：2007～2009年に踏査調査，2015年再調査 3次メッシュ単位で記録
- 2) 植被の季節変化：2007～2009年の毎月中旬，28定点（流程50m クリーク幅）において被度(%)を計測
- 3) 防除の試行：2010年～2011年，流程700m範囲，作業は人力により実施，ホーク・鎌などの農具を使用

結果と考察 1) 福岡県における分布状況

■2015年における分布



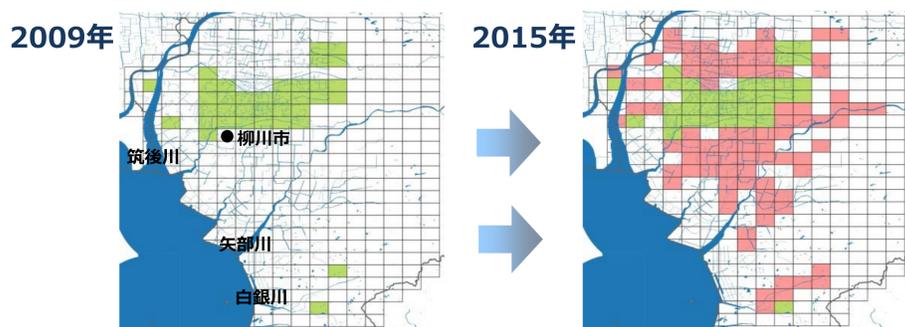
- ① 柳川市及びその周辺クリーク
- ② 大牟田市水路
- ③ 筑後川流域（久留米市ほか）
- ④ 福岡市西区水路
- ⑤ 祓川（みやこ町，行橋市）
- ⑥ 矢部川（みやま市）

※①が県内最大の分布域，現在は⑥と連続

※⑤,⑥は2010年に分布確認

・**3次メッシュ（約1km 1km）151メッシュに分布**

■筑後地域南部における分布拡大



・36メッシュで確認

- ・水流による茎切片の分散が分布拡大の主要因
- ・ただし，飛び地も存在する

・119メッシュで確認

- ・柳川市周辺では2009年の生育地に加えて，南北，特に南側に分布拡大

まとめ

1) 福岡県における分布拡大

- ・ブラジルチドメグサの分布域は拡大傾向で，2015年は3次メッシュ151メッシュで確認。筑後地域南部（柳川市及びその周辺）が県内最大の分布域であった
- ・筑後地域南部では2015年に119メッシュで確認。2009年には36メッシュで確認されていたので，6年間で約3倍に分布を拡大した

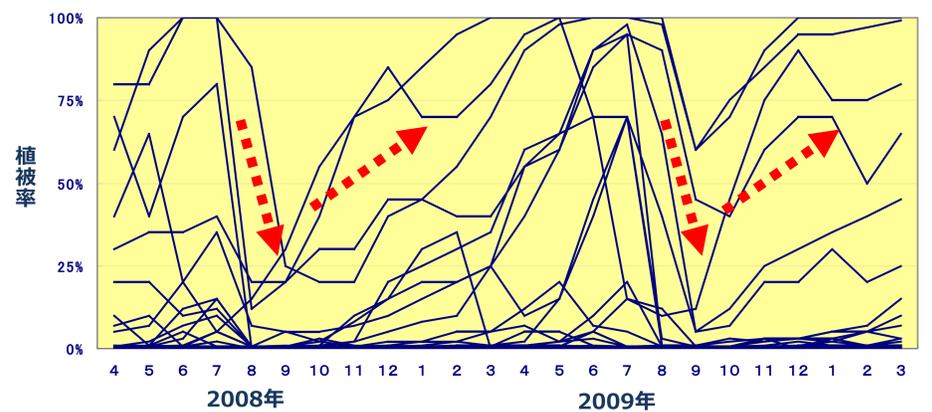
2) 植被の季節変化

- ・夏季を過ぎると，多くの地点で植被が減少または消滅した
夏季に褐色化・腐朽・・・高温障害の可能性
- ・冬季に植被が増加した地点が見られた
ホテイアオイ，ボタンウキクサに比べて低温耐性あり

3) 防除の試行

- ・2段階防除・・・①植被が減少する秋季に防除を実施，②冬季に残された茎切片や小パッチ（常緑で目立つ）を除去
- ・長さ約700mのクリークで試行：防除効率は約73m²/人・日

結果と考察 2) 植被の季節変化



- ・柳川市及びその周辺28定点，毎月中旬に計測
- ・夏季を過ぎると，多くの地点で植被が減少または消滅
- ・冬季に植被が増加した地点も見られた



2008年7月



2008年8月

※**ブラジルチドメグサは，夏の暑さに弱く，冬の寒さに強い！**

結果と考察 3) 防除の試行

■生態学的視点からの防除

- ・夏季に植被が激減する ➡ **秋季に防除を実施する**
- ・常緑のため冬季に目立つ ➡ **冬季に残された茎切片や小パッチを除去する**

■防除の試行

- ・幹線クリーク最上流部(筑後市)，長さ約700m，生育面積374m²(大小約100パッチ)
- ・作業：1回目 2010年12月17日，14人で実施(約23人・時間)
2回目 2011年 2月23日，5人で実施(約7.5人・時間)
- ・防除効率:12.2m²/人・時間 → 約73m²/人・日(実働6時間)
- ・**2011年5月末まで試行地内では生育は確認されず**
(2011年6月に近隣クリークから再侵入)